

日本あちこち河川遡行記（第297回）

大阪2-2. 西除川（その3）前半 令和1年11月1日（金）快晴

やっと秋らしい天候となり西除川の続きに出かける。今日は令和1年11月1日！1の数字が4つ並ぶ4ぞろ目の日である。11日なら5ぞろ目となる。更に先の令和11年11月11日は6つも並ぶ。6並ぶ日はこの日のみで、それまで元気に遡行が続けられたら良いのだが・・・。



00.数字ぞろ目の平成の記念入場券

先日最後の橋であった高野線の橋梁から先は川が深い谷間を流れるミニ渓谷で、地形図の上に橋が無く道も無いのでズルをして次の橋最寄り的高野線「狭山」駅に向かう。



01.今回調査区間位置図



02.南海高野線「狭山」駅で下車

「狭山」と言えば埼玉県に狭山市が有るのでこちらは「大阪狭山市」と言っている。埼玉県の狭山市を走る西武鉄道の市内の駅名は「狭山市」と「新狭山」で、南海電鉄の方は「狭山」と「大阪狭山市」駅で、こちらの方が正当派の駅名を称している。

難波から乗った急行に新今宮から大勢のユーが乗って来た。先行している特

急に乗らず、途中橋本で乗り継ぐ必要のある急行に乗ってくる。たぶん高野山に行くドイツ系の人達で、流石財布が固いな。

北野田駅で各停に乗り換え、次の狭山駅に降りると出口に向かう階段とエレベータはホームの南端のはるか先に在る。橋上の改札口を出て東側の出口に降り北側のミニ広場に向かう。階段の位置が反対やんか、と言いたくなる。狭山駅も市役所が近くに在る大阪狭山市駅も駅前広場が無いので南海バスのバス停も路線も無い。次の橋まで住宅地の中の細い道を川に向かって歩く。足元のマンホール蓋は何処にでもある幾何模様なのでパスして行く。

狭山池の北側には細長い「副池」が連なりその近くまで来ると違うデザインの蓋に出会う。こちらは市の花と木のつつじと桜で、両花がごちゃごちゃに入り乱れている。いずれが菖蒲か杜若である。幾何模様の方は古い初期の蓋でその後の全国的なご当地絵柄ブームに乗ってデザインした新しい蓋だろう。この手のデザインは全国に無数にあり見ただけではどこの物か分からない。



03.大阪狭山市の花と木のつつじと桜がゴチャゴチャに

住宅地の外れに来ると副池が現れ、池沿いの遊歩道を進む。やがて広場が現れ、大勢の年寄りがランドゴルフをしている。広場の外れには高い主塔が目立つ単径間斜張橋の歩道橋が建っている。地形図で見ると目指す細い橋とは規模が違うのでパスして先に進む。そろそろ橋に出会うころと進むとどうやら先ほどの橋が目指す橋のことだと分かる。最近では地形図が古い時代に作成されたのと、更新時の調査不十分なので橋の記載がないことが有る。仕方が無いので来た道に戻り、広場の端の橋を診て階段を上がる。たいしたことも無い溪谷を渡る歩道橋なのに御大層な橋を架けたものだ。肝心の橋名がいくら探しても無いではないか。



04.狭山池の北には副池が、遊歩道も有る



05.この御大層な橋が目指す橋だったのだが通過

橋から下を見れば10m以上も下に水が流れ、兩岸から竹木が川に覆いかぶさるように茂り水面が見えにくい。

対岸の広い道を南に向かうと予め調べておいたうどん屋が三差路に在る。全国どこも同じ姿の建物と大きな看板である。久しぶりのさぬきうどんが食べられると中に入ると行列になっている。多くは老人で大半が大阪らしくない「釜揚げ」を、それも「大!」、「特大!」と叫んでいる。順番が来て当方は歩いてきて暑いので「ざる大!」と叫ぶ。「大阪なのに讃岐並みに皆釜揚げを食べるのは珍しいネ」と言うと、「今日は釜揚げを半額にしている特別デーです」なあるほど、坂出時代に何度も行った満濃町の「長田うどん」の釜揚げを想い起しながら腰のあるざるを食す。



06.橋から下を見れば樹木がモジャモジャと



07.この姿は何処に行っても同じや

15分ほどの休憩後歩きを再開する。国道310号を南に進むと車道端に違うバージョンの蓋を発見する。車が途絶えた時に車道に出てカシャ。第三の絵柄は狭山池築造1400年記念の絵柄である。塚に負けておれまへんで！



08.国道で見つけた特別バージョン

府道26号との交差点を左折し下り坂を川に向かって降りて行く。両側が切り立った崖の上の橋の両側に立ち入れず、橋種も分からないで池の土手に行く階段を上り土手に上がると大きな池が眼前に広がる。水面は遥か下に有る。飛鳥時代に人工的に作られた大きな池だ。灌漑用ため池としては讃岐の弘法大師が造られたといわれている「満濃池」が有名で大きさも半端でないが、ここはもっと古く大きさもたいしたものである。今日は満濃町と縁の有る日だ。



09.狭山池の上に上がると遊歩道が



10.池干しで水面は遥か下に



11.池の歴史が書かれている

池の彼方には石川遡行時に見た PL 塔が聳え、次に目指す「東除川」の始点の流出口が見える。湖と池と沼の違いを考え調べたことがあるが、池は人工的につくられた水溜まりで、湖は自然に、沼は深さが浅いものを言うようだ。最近湖と池の誤った使い方がなされている。



12.彼方の橋の下から「東除川」が始まる

池を一周できる遊歩道を南に進むと西除川の流路が高い函渠になり、水が一滴も流れていない。反対側を見ると水路の上の中ほどから水が勢いよく流れ落ちている。橋の高欄の上の柵には池の水抜きを始め11月初旬には池干し状態にすると書いてある。池の掃除、富栄養化防止のための池干しだ。



13.ここが西除川の流路だが



14.渇水期に池の水を抜き放水

[続く]